

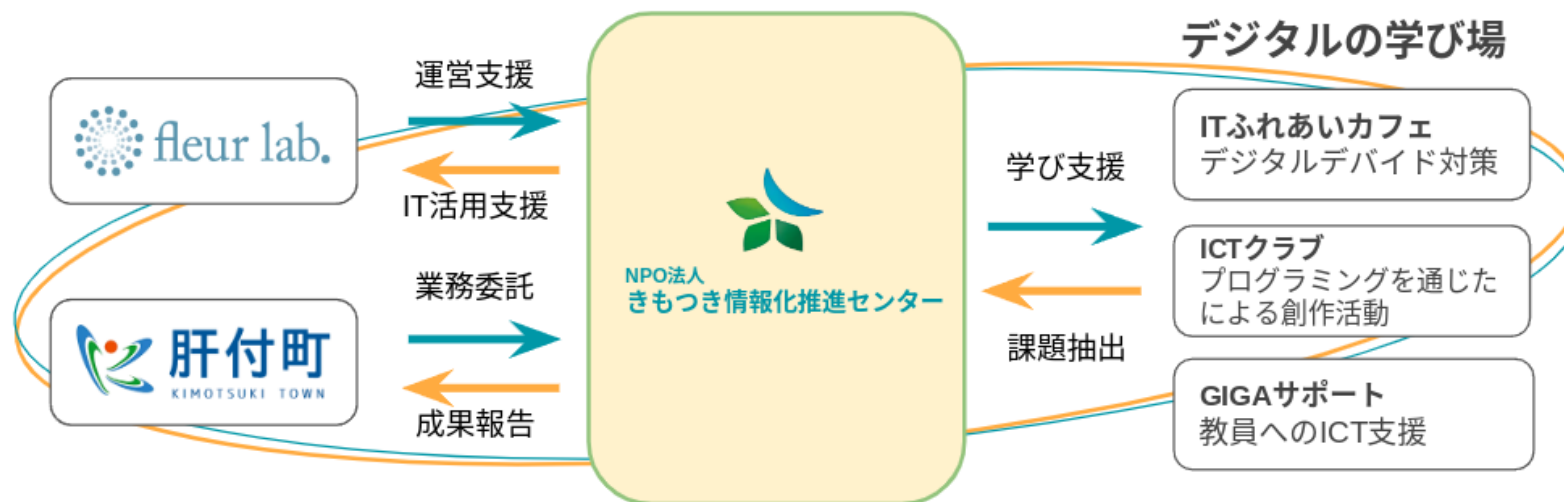
推薦調書（実装部門）

表彰区分	町村	推薦都道府県	鹿児島県
市町村名	肝付町		
取組名称	地域の NPO 法人が繋ぐデジタルの学び合い		
連携自治体、企業、団体等	肝付町、NPO 法人きもつき情報化推進センター、fleur lab.		
デジタルを活用した取組の概要 （デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）	②	（左記が①の場合 の分野）
	【デジタルを活用した取組の全体概要】 ○地域における多世代のデジタル利活用を支援する NPO 法人きもつき情報化推進センターが地域のイベント運営コミュニティ「fleur lab.」と協働して、住民がデジタルの困りごとを相談できる「IT ふれあいカフェ」、子どもたちのプログラミングを通じた創作の場となる「ICT クラブ」、GIGA スクールにおける学校現場の支援を行う「GIGA サポート」など、地域におけるデジタルの学び場の運営を行う。スタッフは主にデジタルについて専門的な立場にはなく、学び場の運営を通して地域とともに学び合う仕組みづくりを行っている。 【実施に至る経緯・動機】 ○介護保険事業としてのスマートフォン講座 2014 年に独り暮らしの高齢者と地域との繋がりを維持することを目的としたスマートフォンによる SNS 講座を行ったところ、想定を超える多くの参加希望があり高齢者も利活用の意識が高いことがわかった。 ○プログラミング必修化と GIGA スクール 小学校におけるプログラミング教育の必修化と GIGA スクール構想の実現に向けて、地域でも継続的に学び支える環境づくりが必要であると考えた。 【解決する課題の具体的内容】 ○地域でともに学ぶ機会とコミュニティがない インターネットを活用した利便性の高い製品やサービスが普及しているためにそれらを利用する意欲は高く機会も多いが、基礎となる技術や操作方法について支援を受けて学ぶ機会とコミュニティが身近にないために、過度なサービスによる必要以上の金銭的な負担や悪意のある誤った情報に操作されるなど、一定数の住民が利用に関する疑念と不安が解消されずにデジタル社会の適切な恩恵を享受することができない。 ○学校教育における ICT のナレッジが蓄積されない GIGA スクール構想や教員の働き方改革にむけた様々な ICT 活用が求められているが、定期的な教職員の異動や PTA 役員の変更により ICT 利活用の方法と進度が一定せずに学校全体の知見が蓄積されにくい。		

デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	○ボランティア協力者の人数（H30～R3 年度）※H29 以前は不明 25 名 ○IT ふれあいカフェ（H25～R3 年度） 開催数 149 回、利用者 延べ 1,330 名 ○ICT クラブの開催回数と参加者数（H30～R3 年度） 開催数 52 回、参加者 延べ 223 名 ※H30, R1 は不明 ○ICT 支援員による支援回数（R2～R3 年度） 支援校 10 校、支援回数 413 回、1,504 時間
本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	○参加継続しやすい仕組みづくり 利用者が継続して学びやすくデジタルに触れやすい環境を構築するために参加する敷居を低くすることを意識しており「IT ふれあいカフェ」では用事がなくても立ち寄れて何度でも同じ相談ができる雰囲気を作り、「ICT クラブ」では連続して参加できなくても活動できる仕組みを作っている。 ○多様な協力者と視点を持つ体制づくり 地域のマルシェイベントを行う団体と連携することで、体育大学生や幼稚園教諭、主婦や美容サロン経営者などこれまでの ICT 推進の取り組みには縁遠かった層の協力者を呼び込み、多様な発想と視点を取り入れている。 ○情報を効率的に集約し共有する仕組みづくり 多様な協力者とのコミュニケーションにはコラボレーションツールを活用しており、それぞれの会場と担当者の調整や利用者の情報などを効率的に集約し共有している。集約されたデータを基に町と分析協議し施策に反映させる仕組みづくりを行っている。
今後の展望	地域 DX の中間的支援組織としての成長に向けた体制づくり ・ 公的機関や外部専門家との連携を通じてより専門的な支援に繋げる。 ・ コンテストや起業家育成に繋がるワークショップなどの機会創出 ・ シビックプライドの醸成に繋がる教育コンテンツの開発支援

地域のNPO法人が繋ぐデジタルの学び合い

肝付町では2014年に行った介護保険事業としてのスマートフォン講座を開催して以来、デジタルについて学ぶ機会とコミュニティの育成を目的とした「ITふれあいカフェ」を実施してきました。2020年からはNPO法人きもつき情報化推進センターが地域のイベント運営コミュニティ「fluer lab.」と協働して、気軽に何度でもデジタルの困りごとを相談できる「ITふれあいカフェ」、子どもたちのプログラミングを通じた創作と発表の場となる「ICTクラブ」、GIGAスクールにおける学校現場の支援を行う「GIGAサポート」など、地域におけるデジタルの学び合いを重視して専門家ではない地域のボランティアスタッフが運営に携わっています。





2012年に住民有志で設立されたNPO法人。

これまでに情報発信サイトである「きもつき情報局」の運営やデジタルデバйд対策を含むIT人材の育成、都市部のIT企業の実証支援などを行った。

地域DXの中間的支援組織として、デジタルの学び場の運営を通じて地域のデジタル化を推進する。



多業種で活躍する女性を中心となり「おおすみハナマルシェ」や「こども記念日」、「おおすみ女子会」など地域に根ざしたイベントの企画・運営を行うコミュニティ。

デジタルの専門家ではなく自らも高齢者や学生とともに学び合う視点で学び場の運営を支援する。コロナ禍における自らのイベント活動にもデジタルを積極的に取り入れている。



ITふれあいカフェ・きもつき



気軽に立ち寄れる雰囲気でも度々相談できます。

主にスマートフォンの利用で起きる困りごとやお悩みの相談を受ける。わからないことも一緒に調べたり予約不要で何度でも相談できるためリピーターも多い。
貯まったポイントの使い方やネット通販の決済等の相談が多くある一方でセキュリティへの不安や料金に関する相談が増えているため、今後は公的な機関や専門家と連携し適切な支援につなげる体制づくりを行う。

相談内容については個人情報のない形式で記録してスタッフと町が共有して課題の抽出と対策を行っている。

きもつき ICTクラブ



継続しやすい環境と自己表現の機会創出

町内の学校区ごとに子どもたちがプログラミングによる創作活動を行う場として運営している。
連続して参加できなくても活動できる仕組みと、自分の作品をみんなと共有し合う発表会などの交流を通じて持続的なコミュニティづくりに取り組んでいる。

今後はプログラミングコンテストなどへ参加し交流の幅を大きくするとともに、起業家育成につながる機会の創出を行う。

GIGAサポート



地域で支えるGIGAスクール

GIGAスクールでは自治体ごとに利用する端末やシステムが異なるため異動による教職員の負担が大きいことから講習会等により操作習熟に対する支援を行っている。

今後は地域のICT教育として継続的な取り組みが行えるようなコンテンツの開発と児童生徒のシビックプライドを醸成する取り組みの支援を行う。